

生きものの生態を学び、
人づくり・地域づくりにつながる活動に！

祓川の淡水魚



生きものを観察しよう

捕まえた魚は簡易同定
(種名を明らかにする)を
行い、記録・撮影した後、
みんなで観察し、話し合いま

した。生きものグループの活動から学んだことの中に「その生きものがどこにいて、何を食べて、どのように一生を過ごすのか見る。」というのがあり、調査を通して生きものの生態をよく観察することを大切にしています。

観察したらほとんどの生きものは川へ戻しますが、一部の個体のみを博物館へ持ち帰り、標本にします。



④カマツカ(コイ科カマツカ属)砂れきの中に潜る魚。
⑤カワヨシノボリ(ハゼ科ヨシノボリ属)稚魚が海に降りず、一生を淡水で過ごすことが和名の由来といわれています。成魚の全長は4-6センチ。⑥アカザ(アカザ科アカザ属)体色は赤褐色で全部で8本のヒゲがあります。



①オイカワ(コイ科オイカワ属)県内の川ではよく見られる魚で、オスの婚姻色は美しい。②ヌマムツ(コイ科オイカワ属)近縁種のカワムツとはとてもよく似ています。③カワヒガイ(コイ科ヒガイ属)タナゴ類と同じく生きた淡水二枚貝の中に卵を産む魚。

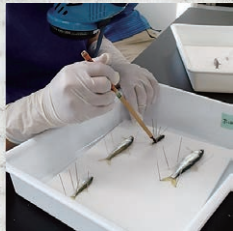
えきしん 魚類の液浸標本作製

標本は、後で観察しやすい状態で固定されていて、採集日や場所などの情報が記録されています。

標本にして残していく

標本は、様々な研究や、環境保全のためかという証拠です。博物館に保存された

博物館の使命のひとつに資料の収集と保存があります。資料である標本は、いつ、どこに、生きものがいた



固定する

ホルマリン原液を塗って、時間をおいて固定します。固定されたら魚が傷つかないように針を抜きます。



ヒレ立て

太めの針で魚全体を固定し、細い針で尾びれから順にヒレを広げていきます。ヒレが自然に美しく見える状態で針を打つことがポイントです。



容器(標本ビン)に入れる

ホルマリン(10%)の容器に入れます。のちに約70%アルコールに置換し、標本ラベルをつけて保管します。



データ管理

博物館では標本一つひとつに資料番号をつけ、データ管理をしています。科名、種名、学名、採集日、採集場所、採集方法、採集者などの情報が記録されています。



※ホルマリンは危険な薬品です。メガネやゴム手袋を着用して、注意して取り扱います。

も活用され、記録として後世に伝えられます。
生きものグループは、資料の収集と保存管理にも関わっていて、博物館をサポートしています。